割とよくある異世界召喚ネタ

水里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
割とよくある異世界召喚ネタ

【Ｎコード】
Ｎ２４７９Ｋ

【作者名】
水里

【あらすじ】
腐れ縁の幼馴染と書いて親友に巻き込まれ、たどり着いた異世界で主馬は知る。
己がこの世界に必要とされていないこと。拒絶されていることを。
残ったものは一つだけ。もうこれ以上は、失うものなど何一つない。
女神との邂逅。勇者の道程。そうして彼は何を選択するのか――（嘘）

（前書き）

だいたいあってるといいですね

トンネルを抜けたらそこは異世界でした。腐れ縁（しんゆう）の幼馴染は勇者様で、世界を救ってくださいとか言われてました。でも正直そんなのどうでもいいです。

なんで俺死んでんのさ。

俺の名前はヒキタカズマ。いたって平凡な高校二年生だ。強いて違うところをあげるとすれば、モテモテのハーレム野郎が幼馴染ってとこかナー。もちろん男に興味なんかないぞ。俺は女の子が大好きだ。もう死んじゃったので全部意味がなくなったわけだが。

何で死んだかなんて知るもんか。何しろ体がないのだ。今の俺は霊体だけ、つまりはユーレイ。覚えているのは突然現れたブラックホールに吸い込まれそうに……なった幼馴染の道連れにされたってところまで。え、その幼馴染はどうしたって？　ピンピンして頬真っ赤に染めた美少女さんから説明を受けてるよ？

一緒に来たやつが見当たらないって、俺別にお前と一緒に来たくなんかなかったんだけど。ていうかお前に無理やり引きずり込まれたんだけど。美少女さんは別のところに落ちたのでは？　なんて言ってるし。あのー、見えないだろうけど超隣にいるんですけどー。何なのこの大理不尽。

思えばこれまでの人生、不幸の連続だった。やつとお隣さんに生れ落ちたその日から、俺の不運は始まっていたに違いない。

俺から平穏を奪い去ってきた悪魔の名は、神坂聖（コウサカヒジリ）という。ものすごいイケメンというわけではなく、どっちかっていうと童顔の平凡仲間。でもよく見ると実は意外と端正な顔立ち、らしい。よく見たことがないから知らないけど。普段クールぶってるくせに本当は熱血正義感で猪突猛進なところがあり、女の子の涙にものすごく弱い。

つまりはお前、どこのラノベから抜け出てきたよっていうくらいのテンプレ主人公タイプ。
女の子からの好意にものすごく鈍感で、一方男の友情にはひどく篤いので、くそみそな勘違いをされたことも多々ある。勘弁しろ。
百歩譲って巻き込まれるのはまあしょうがない、俺だって友人だけを戦場（ケンカ）に行かせるなんてことは人として男として見過ごせない。だからそれは納得ずくだ。そりゃまあ毎度毎度貧乏くじ引いたなあとは思うけど、それだけじゃ不幸だとは思わない。だから俺が不幸なのはそういうことじゃない。

どれくらい不幸って、何で助ける女の子軒並みみんな聖に惚れるんだ。十中八九ってレベルじゃねーぞ。百発百中だぞ。誰か一人くらい俺とラブコメしてくれたってバチは当たらないはずだ！
でもみんな聖のやつに惚れる。つまりあれか、俺はラノベに出てくる主人公の友人か。お前は先に行け！　って俺は踏み台かそうなのか。女の子たちは「ガツガツしてないのがいい」と言っていたが、俺も今からでも流行りの草食男子にジョブチェンジすべきか。
しかしもう死んでるので意味がない。ほんと、何でこんなことになったんだかなあ……

「それについてはアタシが説明してアゲルわ」

うわ、びびった！　びっくりした！
聖の隣にふよふよ浮いてたら（日本式幽霊とは違って足はあるようだ）、いきなり声をかけられた。でも、どこから？　きょろきょろ見回してたら、いきなりセカイが真っ白に染まった。な、何事だ。
と思ったら、いきなり何もない空間で、目の前にはお目にかかったことがないほど超絶美人でボンキュッボンなナイスバデーのおねーさまがっ！？

「あらアリガト。もっと褒め称えてくれて構わないわよ」

あれ、俺今別に何も喋ってないよね？

「ええそうね？」

心、読まれた！？

「ええ、そうね」

い、いやあああああああああああああ！！！　もうお嫁にゆけない！

「思った通り、面白そうな子ねえ」

いえいえそれほどでも。それで、おねーさんは？

「アタシはエイダ。この世界のカミサマってとこかしら？」

へえー。確か何で俺がこんなことになったかも知ってるんだよね。なんで？

「それはね……」

そうしておねーさん、あらためエイダさんが話してくれたのは驚愕の事実だった。

何でも、俺たちをこの世界に呼び出した魔法は本来定員一名の、勇者を召喚するためだけのものらしい。つまり、あっちからこっちまで無事に通り抜けられるのは選ばれた勇者だけ。まあ、そりゃそうか。ほいほい人が通れたら困るもんね。七人の勇者！　とか、十

一人いる！　とか。それはそれで見てみたいけど。
ところが当の勇者が俺というイレギュラーを引きずり込んでしまった。でも、そのゲートは勇者以外は通れない。そうするとどうなるか。
ゲートは俺を異物として判断し、拒絶。その結果として俺の体は世界と世界の狭間で消滅。体がなくなったので当然死亡したが、魂だけが執念深くも残ったということだ。何じゃそりゃ。完全に俺巻き込まれ損じゃないか。そして執念深くとかしつこくとか生き汚いとか描写されるって、どれだけなんだ俺の魂。

「で、エイダさんはそんなこと言うために現れたわけじゃないんでしょ」
「ええ、そうよ」

赤い紅い唇がにたりと笑みのカタチに歪む。心臓に悪いくらい、艶っぽい。ぞくぞくと背筋を走るものは、たぶん恐怖と似ていた。
何てったって、極上なのだ。美人なんて言葉でくくるのが惜しいほどに美人なのだ。妖艶なのに神々しく、美しいのに悍ましい。カミサマだから当たり前なんだけど、正に人外レベルの美女なのだ。そりゃ、見とれもするさ。タマシイ吸い取られそうなくらいには、さ。

つやっつやの黒髪は纏めることなく背に流され、切れ長の瞳は吸い込まれそうなほどに深いエメラルドグリーン。左目の下の泣きぼくろがまた半端なくエロい。
きめの細かい肌は退廃的な白で、真っ赤なルージュがことの他目立つ。紅い唇から覗く赤い舌。大きくスリットの入ったタイトなドレスもまた、ルージュのような深紅だ。十センチはありそうな、高い高いヒール。背はすらりと高く、……俺の方が低いかもなんてことは考えたくない。きっとヒールのせいだ。そうに違いない。

肉食獣のしなやかさを持った体躯は出るところは出て引っ込むところは引っ込み、おそろしく蠱惑的だ。見た目に迫力があるだけでなく、発する空気までもが鮮烈。彼女が多数の中に埋もれることなど、有りはしないのだろう。どこにいたって目立ってしまう。視線を、賛美を、畏怖を集めずにはいられない。

男なら誰しも、取って食われたところで本望だろう。ごく一部の例外（エチ）を除いて、だが。

彼女はその外見とはまるで相反するようにひどく無邪気に、にっこりと微笑んだ。ああ、そんな顔すらも――

「美味しそうなタマシイを見つけたから、ちょっとつまみ食いしようかと思って」

アッー！

結局なくなる直前くらいまでつまみ食い（食事的な意味で）されて危機感を覚えたものの、俺が消えることはなかった。どうやらお気に召していただけた（味的な意味で）のか、俺はエイダさんの嗜好（おやつ）品になったらしい。その割にはもりもり食われてるんだけど。嗜好品は食事の代わりにはならないと思います。

そうは言っても、なくなったら流石にどうにもならないので加減してくれているし、何しろエイダさん（女神様）をして生き汚いとまで言わしめた魂、それが俺だ。九割齧られたところで数分後には復活していたりする。さすがに自分でもどうかと思うが、タマシイだからできる芸当だよな、これ。

まあ何というか、よくある話ではあるよな。人間の魂（イノチ）を啜るカミサマとかな。エイダさんは愛と豊穣と戦の女神様らしいし、あっちで言ったらイシュタルってとこなんだろう。ちなみに女神として人

間たちが呼ぶ名前は別にあるらしく、本名がエイダなんだそうだ。
そんなわけで。

異世界のお父さんお母さん、お元気ですか？
あなた方の息子は今、女神様の餌（おしょくじ）として第二の人生を謳歌しています。死んでるけど元気なのでご安心ください。エイダさんは美人だしえろいし最高です。正直巻き込まれて良かったです。
ちなみに俺を巻き込んでくれたお隣の聖くんですが、こちらもハーレムを増殖させたりヤンデレに追われたりしつつ元気にやっているようです。おじさんおばさんにも安心するようお伝えください。
追伸、聖くんは先日立派に異世界の救世主になりましたが、いまだに俺を探しているようです。そろそろ無事（死んでるけど）を知らせてやるべきでしょうか。

（後書き）

ライトなコメディを目指して思いっきり挫折しました。
実は当初は永遠に時空の狭間を魂だけでさ迷い続けるとかの予定でしたが、さすがに可哀そうかと思ってこうなりました。まあ大体幸せだと思います。
ビッチな女神様はジャスティスです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2479k/

割とよくある異世界召喚ネタ

2010年10月15日20時21分発行